



本郷台教会の礼拝が終わったら、玄関口に淳子さんがやって来て、「小さな秋を楽しんでください」とおっしゃって、綺麗な、小さな包みを下さいました。家に帰り、開けてみると「さぬき和三宝」という高級な砂糖菓子でした。京都の友禅和紙の受け皿の上に、色とりどりの小さな柿、葡萄、栗、苜などが、黄色い銀杏の葉、赤い楓の葉、小菊と一緒に並んでいました。小さなお皿の上に秋がいっぱいです。優しいお心使いに感謝です。早速、お茶を点て、味わうことにしましょうか。

これから、目にも、もちろん口にも、たっぷりと秋を味わうシーズンがやってきます。我が家のバルコニーから眺める桜も黄葉が始まり、緑の芝生の上に、茶色になった葉っぱが日毎に落ちてきています。けれども、西の空に富士山が顔をのぞかせてくれますので、空気も乾燥して、秋の空になっているのだと実感できます。



鉢植えのブルーベリーも実をつけてくれます。一粒一粒、実が紫色になり次第に摘んでは、ジャムにしよう！と思って、冷凍保存してきましたが、21粒取れただけでした。これでは市販のブルーベリーに混ぜ込んで煮るしかありません。一方、クリスマスホーリーは鈴なりに緑色の実をつけています。赤く熟す頃には、小鳥たちへのクリスマスプレゼントになる予定です。



四季咲きの薔薇も、秋の色どりに加わり始めました。今年はオールドローズ「ラ・フランス」がたくさん花を咲かせてくれました。冬までしばらくの間、色々な薔薇が咲いてくれるでしょう。朝一番に水やりのためにバルコニーに出ると、薔薇の香りが迫ってきます。自然の生き物は定められた命に純真に従って、懸命に生きていますと、つくづく感じずにはられません。